

横浜市 歴史博物館

NEWS

25

2007・10

- ◇企画展「鶴見合戦―『太平記』にみる横浜―」によせて
- ◇「竪穴住居に泊まろう」を終えて
- ◇〈研究余話〉大塚・歳勝土遺跡以降の横浜
- ◇収集・収蔵資料の紹介[26]「平治物語絵詞」・「六波羅合戦巻」
- ◇〈常設展示室探検〉人力車
- ◇報告:神代神楽公演
- ◇〈ちょいとミュージアムショップたいむ〉埴輪メモブック
- ◇〈知ってますか?〉スタンプシート始めました!



企画展

鶴見合戦

『太平記』にみる横浜

によせて

太平記絵巻 先帝遷幸の場面
(埼玉県立歴史と民俗の博物館蔵) 後醍醐天皇の輿に従う3人の武者のうち、2人が千葉氏と小山氏。



武蔵国鶴見寺尾郷絵図(神奈川県立金沢文庫蔵) 上が西を向く。下部の流れが鶴見川。

軍記物語『太平記』は三部四〇巻にもなる長編の物語で、鎌倉幕府の滅亡から室町時代のはじめまでの約半世紀にわたる南北朝の動乱を主題としています。この物語は、後醍醐天皇や楠木正成・新田義貞、足利尊氏など南朝・北朝の武士たちが勇壮な戦いを繰り広げることでも有名ですが、同じ時期に横浜市鶴見付近で二度の戦いが起こっていたことはあまり知られていません。

武蔵国鶴見(横浜市鶴見)は、鎌倉から東京湾岸を経て千葉県や茨城県に至る

鎌倉下の道沿いにあたり、また鶴見川が交差する交通の要衝でした。元弘三年(一二三三)五月、上野国新田庄(群馬県太田市)の生品神社で挙兵した新田義貞は、軍勢を率いて鎌倉を目指します。

義貞に呼応する武士は関東各地から参集し、『太平記』には最終的に約二〇万騎余の軍勢に達したとあります。鎌倉幕府は、桜井貞国を大将に大軍を入間川(埼玉県狭山市)に向かわせて新田勢の行く手をはばみ、また金沢貞将を下の道を通って下総国下河辺庄へ向かわせて、関東東部地域の武士を味方に付け、新田勢の背後を攻撃させようとした。

五万騎の兵士を率いて鎌倉を発した金沢貞将の軍勢は、武蔵国鶴見で小山秀朝・千葉貞胤の軍に敗れて鎌倉へ敗走します。これが一度目の鶴見合戦です。戦った小山・千葉両勢は、ともに鎌倉幕府の有力御家人でしたが、北条氏の支配下でながく抑圧されていました。金沢貞将は、これら味方に付けるはずの武士から攻撃を受けたようです。勝った小山・千葉氏はそのまま鎌倉へ突入し、北条高時以下一門は自害、鎌倉幕府は滅びてしまいます。

二度目の戦いは、建武二年(一二三三)

七月に起こります。信濃国(長野県)に逃れていた北条高時の遺児・時行は、鎌倉奪還を謀って挙兵し鎌倉に迫ります。対する足利直義軍は武蔵国府中(東京都府中市)と井出の沢(同町市)で敗れ、直義は三河国矢作宿へ逃れました。時行軍は七月二五日に鎌倉を占領しますが、その前日二四日、時行軍の一派と常陸国佐竹氏の軍勢が、武蔵国鶴見で交戦しています。

この勝敗は定かではありませんが、戦いに参加した佐竹貞義の五男・義直は、家臣の小野崎通春らと共に、鶴見で戦死しています。義直の戦功はその後足利尊氏によって賞されて、佐竹氏の常陸国守護職の獲得に影響し、江戸時代に至るまで『佐竹氏系図』に書き継がれています。

これら鶴見での戦いは、『太平記』には詳しく述べられていませんが、鶴見区の古刹松蔭寺の寺伝には、本尊釈迦如来を開帳しない理由として、鎌倉幕府滅亡時の鶴見合戦に際して、兵火にかかったためといえます。また同寺に伝わり現在は神奈川県立金沢文庫に保管される国指定重要文化財「武蔵国鶴見寺尾郷絵図」には、鶴見川を渡る鎌倉道(旧東海道)が描かれており、絵図の作成された建武元年(一二三三)の鶴見の様子、合戦の行われた地域を豊かに表しています。展覧会では、この絵図をはじめとする関係資料を展示し、横浜にかかわる『太平記』をご紹介します。(阿諏訪 青美)

「竪穴住居に泊まるう」を終えて

大塚遺跡は、隣接するお墓の遺跡である
歳勝土遺跡とともに、国の史跡となつてい
る弥生時代の貴重な遺跡です。ここは現在
大塚・歳勝土遺跡公園として整備されてい
ます。大塚遺跡の中には八五棟の竪穴住
居の跡が見つかつています。このうち、七
棟が現在復元されており、来園者に親しま
れています。

この竪穴住居に家族単位で泊まつていた
だく企画を昨年から行っています。以前は
小学校五、六年生を対象とする宿泊企画で
したが、ご家族でめつたにできない体験を
していただき、家族共通の思い出を作つて



写真1

もらおうと始めました。

竪穴住居は旅館やホテルではありません
ん。弥生時代という古い時代の住居を復元
したものです。今の感覚では決して快適な
住居ではありませんが、むしろ逆にテレビ
もシャワーもない「不便」な古代の生活を一
晩体験してもらい、古代人の生活に思いを
はせていただくのがこの企画の趣旨です。

復元されている七棟のうち参加者が泊ま
るのは、比較的大型の四棟で、一棟に原則
二家族のいわば相部屋になります。募集定
数八家族に対して、昨年今年も五倍の応
募があり、人気の高い企画となっております。
今年は八家族二六名が参加することになり
ました。

九月一日の夕方、朝からぐずついていた
天気も回復し、約束の午後五時には全員が
集まりました。直後に行われた開村式では、
相部屋となるご家族の紹介があり、一晩を
一緒に過ごすご家族同士で「よろしくお願
いします」の挨拶がありました。

開村式の後には火起こし体験を行いました。
た。食事をするには火を起こさなければな
りません。それも古代の方法で行います。
今回はマイギリ式という方法でチャレンジ
しました(写真1)。マイギリ式は火起こ
しでは楽な方法ですが、「現代人」には難

しかったようで、最初はみなさんなかなか
火が付きませんでした。そのうちに道具に
も慣れ、火が起こせるようになり、最後は
全家族が火起こしに成功しました。汗びっ
しりのみなさんの顔からは、開村式の緊
張感はありませんでした。

火起こしでおなかのすいたところで、夕
食の準備に取りかかりました。一棟二家族
に用意されたパーベキュー場で、各自が調
理した料理と博物館が土器で作ったスープ
と古代米(黒米)で夕食をいただきました。
土器で調理することは古代のやりかたで、
その様子をみなさん興味深そうにカメラに
おさめていました。

夕食の片づけが終わると、竪穴住居へ移
動です。住居の地面にブルーシートとゴザ
を敷き、あかりはランタンだけの簡単なこ
しらえです。みなさんはここに寝袋や毛布
を持ち込み、就寝の準備をしました。思っ
ていたより広いとの感想がみなさんから聞
かれ、子どもたちは住居の中でちょっと興
奮気味でした。

竪穴住居への移動が終わわり、一息ついた
後に、「夜の遺跡見学」が始まりました。
今晩泊まる遺跡がどのようなところなの
か、博物館の考古担当学芸員が、やさしく
解説しながら案内しました(写真2)。真



写真2

つ暗な遺跡を懐中電灯の光だけで見学する
ことで、昼間と全く違う遺跡の雰囲気を知
わうことができました。

消灯は夜十時。みなさんお疲れになつて
いたのか、その後の見回りでは、住居の中
から話し声はなく、早くおやすみになった
ようです。起床は朝六時。「眠れましたか」
と声をかけると、「はい」という元気な声
が返ってきました。七時には開村式。貝
塚から出土した六〇〇〇年前のハマグりを
記念品として差し上げて、この企画は終了
しました。

たった一晩のシンプルな体験でしたが、
現代人が忘れた大事な何かを参加者が感じ
ていただけたのなら幸いです。(井上 攻)

大塚・歳勝土遺跡以降の横浜

一 弥生の風がやってきた

当館の常設展示やこれまでの企画展でも何度かふれられてきたことですが、縄文時代後期以降人口が減少し、ほとんど人が住まなくなっていた港北ニュータウンやその周辺地域に、ある時期突如として大陸からの文化の影響を受けた人々がやってきます。それは弥生時代中期後半のことだと考えられています。

博物館に隣接して残されている大塚・歳勝土遺跡（都筑区大塚西）は、この時期に営まれた集落と、そこに暮らしていた人々のお墓がセットで見つかった遺跡です。周囲にぐるりと溝を廻らせる環濠集落である大塚ムラに暮らしていた人々は、推定一〇〇人〜一五〇人と考えられ、住居を建てなおしながら住み続けることにより、結果として一〇〇棟以上の竪穴住居の痕跡を残しました。

大塚ムラが営まれた時期と前後して、周辺には同じような一〇〇棟前後の竪穴住居の痕跡を残す環濠集落が多く作られます。周辺地域でもっとも大規模で中心的な性格を持っていたムラと考えられる

折本西原遺跡も営まれる一方で、環濠をもたない一〇棟前後の集落も出現します。

このように、集落の形態は様々ですが、多くの人々がこの地域で生活するようになりました。

二 縮小する大塚・歳勝土遺跡

多くの人々が生活した時期より少しづつと、この地域の人口が再び減少に転じるようです。大塚・歳勝土遺跡を例に取ってみますと、中期後半の段階では一〇〇棟以上の竪穴住居の痕跡を残したにも関わらず、後期になると一〇棟前後の集まりが大塚遺跡側と歳勝土遺跡側に認められる程度になります（図1）。

大塚遺跡と歳勝土遺跡の発掘調査報告書によると、大塚遺跡では弥生時代後期の住居址が六棟、同じく歳勝土遺跡では一〇棟が確認されています。歳勝土遺跡は遺跡の中でも一部分発掘調査を行っていない部分がありますが、この部分にも住居址が存在するとしても数棟程度にとどまるだろうとの予測が述べられています。また、住居址の集まった地域の東の端辺りでは同じ時期に造られた方形

周溝墓が一基確認されています。

しかもこれら両遺跡の住居には建て替えるの痕跡があったり、住居址と住居址の間が狭すぎたりすることから、すべての住居が同時に存在した住居ではないようです。つまり、同時には数棟程度の住居

しか存在していなかったのです。

もちろんこのような住居のあり方としては、大塚・歳勝土遺跡が環濠集落とそれの墓地として存在していた期間よりも短かったため、結果として残された住居の痕跡が少なくなったのだ、という解釈も成り立つかもしれません。実際、立て替えて確認できる回数も環濠集落で認められるものより少なく、比較的短期間で集落が廃絶される傾向が認められます。しかし、同様に小規模な人数によってムラを形成するという状況は大塚・歳勝土遺跡に限ったことではないのです。



図1 大塚・歳勝土遺跡遺構図



図2 四枚畑遺跡遺構図

周辺地域で調査報告書が刊行されている同時期の遺跡に四枚畑遺跡（都筑区加賀原）（図2）があります。この遺跡でも中期後半のような環濠集落は確認さ

れず、一〇棟前後の住居址が検出されるにとどまっています。こちらも同時には数棟しか人が住んでいなかったようです。

このように、弥生時代後期になると、環濠集落自体がまれな存在となり、ほとんどの集落が数棟前後の住居の集まりとしてしか確認されなくなるのです。

三 ムラ同士のまとめ

大塚・歳勝土遺跡のように各々のムラの規模が小さくなる時期の横浜地域では、どこにでも均質的にムラが営まれたというわけではないようです。鶴見川・早瀬川流域でいえば、新石川の観福寺遺跡周辺、現在（財）横浜市ふるさと歴史財団埋蔵文化財センターで整理作業が進められている北川表の上遺跡周辺、四枚畑遺跡など佐江戸周辺、そして現在慶応大学が精力的に調査を進めている日吉周辺など、いくつかの地域に集落が集中するといった分布の粗密がみられます。

弥生時代後期のこれらの地域では、ムラを形成していた人々の暮らしの中に何らかの変質が起こり、ムラの立地や土地の利用方法なども変化したのだと考えられます。安藤広道氏は、鶴見川下流域や多摩川流域に規模の大きなムラが形成されるようになることから、この地域の広大な氾濫源の本格的な開発が開始され、ここにむかつて集団の大規模な移動が想定される（安藤一九九二）と指摘しています。これは、単にムラが移動した、小さくなった、大きくなったという事実の

原因を考える一つの大切な視点です。

四 入り組んだ様相の日常雑器

また、弥生時代後期になると、横浜市内では異なる形の土器の分布圏（図3）がみられるようになります。常設展示室にもありますが、久ヶ原式土器と朝光寺原式土器、それに相模湾岸系の土器の三つです。それぞれを簡単に説明しますと、久ヶ原式（赤色）が環濠集落の大塚遺跡を営んだ人々の使っていた土器の系譜を引くものです。一方、朝光寺原式（緑色）は中部高地地域の系統上に位置し、壺形土器が比較的少なく、他の二者と比較して固く焼き締まった胎土が特徴的です。もう一つの相模湾岸系（青色）はその名の通り相模湾沿岸地域との影響関係が深いものです。

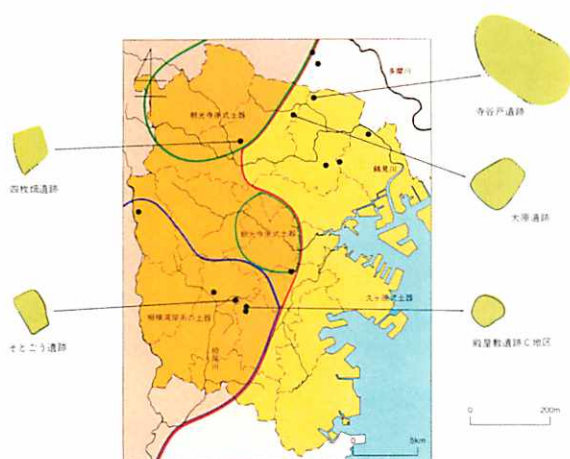


図3 弥生時代後期の土器様式分布図

図3をご覧いただきますと、それぞれの分布範囲がきつちりと決まっているように見えます。しかし、それぞれは排他的に存在するのではなく、同じ遺跡から、時には同じ住居の中から別の系統の土器が出てくる場合もあります。つまり、遺跡ごとに混じり合う割合の差はありますが、違う系統の土器が同居しているのです。

ここで一度、「土器の違いは何を示すのか？」という問題を考えてみたいと思います。弥生時代の土器作りは、まだ專業での製作とはいえない状態であったようです。基本的に土器は煮炊きや貯蔵など、日常生活の場で使用することが主たる目的で作られますから、集落内での自給自足でまかなわれ、製作方法が伝えられていたと考えられています。すなわち、ある集落で見つかる土器は、その集落で暮らした人々の系譜を知る手がかりになるのです。

では、横浜でみられるような異なる系統の土器が同居する集落の内容とは、いったいどのようなものだったのでしょうか。残念ながら今は検討途中ですから明確に答えることはできません。しかし、弥生時代後期の横浜市内では、単純に土器の特徴Ⅱ集団の特徴という構図は成り立たない可能性があります。今後も引き続き、市内の遺跡の分析を詳細に行うことで徐々にではありますが、その様相を明らかにしていくことができると思います。

五 今後の課題と展望

今まで述べてきたように、横浜にいわゆる「弥生文化」の影響が届き、環濠集落大塚遺跡と墓域の歳勝土遺跡が形成された時代を経て、弥生時代後期になると、横浜市内ではムラの再編成とも呼べる大きな変化が認められます。ムラの規模やその立地の変化だけではなく、日常の道具である土器からは、他の地域から人々が新たにやってきたことを読みとることもできます。ただし、他地域の系統を引く土器の入り方は集落によって、その割合や影響の受け方も色々です。

ですから、現状ではまだ横浜市域を「面」として一括りに考えることが難しい段階にあります。弥生時代後期の横浜市域は大きな変化の時期であり、まだまだ明らかにしていかなければならない課題が山積みです。今後は、遺跡ごとの詳細な検討を積み上げていくことで、横浜市域という「面」としての分析も行っていくと思います。（中川二美）

☆参考文献
安藤広道一九九二「弥生時代水田の立地と面積」『史学』第六二巻第一号・二号
安藤広道一九九五「弥生の『いくさ』と環濠集落大塚・歳勝土遺跡の時代」『横浜市歴史博物館』
横浜市埋蔵文化財センター一九九〇『全遺跡調査概要』港北ニュータウン地域内埋蔵文化財調査報告書Ⅹ
横浜市埋蔵文化財センター一九九一「大塚遺跡 弥生時代環濠集落址の発掘調査報告Ⅰ遺構編」
（財）横浜市ふるさと歴史財団一九九四「大塚遺跡 弥生時代環濠集落址の発掘調査報告Ⅱ遺物編」
横浜市教育委員会・（財）横浜市ふるさと歴史財団二〇〇三「四枚畑遺跡 川和向原遺跡」
和島誠一他一九五八『横浜市史』1

「平治物語絵詞」・「六波羅合戦巻」

横浜市域は、古代の末期には、武士団が成長する基盤となっていました。横浜市域の武士たちには、師岡氏・都筑氏・鴨志田氏・平子氏など、源平の合戦をはじめとする様々な合戦で活躍するものや、鎌倉御家人として活躍するものがみられます。また、港北ニュータウン遺跡群の中の、都筑区南山田にあった西ノ谷遺跡は、大鋳の材料である鉄製の札や武器・武具を制作していた



六波羅合戦巻 源義朝の軍勢(左)を追撃する平清盛の軍勢(右)

一〇世紀から一二世紀に営まれた工房跡であることがわかっています。こうした点をふまえ、当館では、武士が出現してくる時代を中心に、その活動が活き活きと描かれた絵巻物資料を収集しています。ここでは、その中の一つ「平治物語絵詞」の「六波羅合戦巻」を紹介いたします。

「六波羅合戦巻」は、平治の乱を描いた絵巻である「平治物語絵詞」の一巻です。

平治の乱は、平治元年(一一五九)一月に起こった、後白河天皇の近臣である藤原信賴が源義朝とともに、藤原通憲(信西)と平清盛の打倒を図って起こした反乱です。この様相を詞書と絵で描いた「平治物語絵詞」は一五巻構成であったようです。しかし、現在は「三条殿夜討巻」(一巻、ボストン美術館蔵、「信西巻」(二巻、静嘉堂文庫蔵)、「六波羅行幸巻」(二巻、東京国立博物館蔵)が残るのみで、他に彩色されていない白描模本「六波羅合戦巻」(二巻)、模本「待賢門合戦巻」(二巻、共に東京国立博物館蔵)いくつかの断簡が知られています。

当館収蔵の「六波羅合戦巻」は、

江戸時代中期には原本の所在が不明となり、白描の模本のみが残る「六波羅合戦巻」の彩色模本です。写されたのは江戸時代後半とみられます。カラー写真が公開されている原本の断簡(一四葉が確認されています)と当館収蔵絵巻の該当部分を比較してみると、色使いでは相違する部分が多くあります。おそらく、当館の絵巻は、原本を直接写したのではなく、何度か書写が繰り返された絵巻をもとに模写したものとみられます。色の背後に、「白」「朱」など色指定の記載が所々にみられるので、手本とした絵巻は着色されていたと想定されます。

絵巻の構成は、(一) 悪源太義平が六波羅邸を攻め、平清盛が追撃する場面、(二) 源義朝に鎌田正清が東国に落ちるよう諫める場面、(三) 「三条河原の合戦」の場面、義朝らが戦場を離脱する場面、(四) 清盛勢が藤原信賴の邸宅に火をかける場面、の四段からなり、現存の白描模本と同じですが、詞書は、スペースは設けられていますが、写されていません。

直接原本を写したものではありませんが、大鋳の札や威・色合の細かな表現、合戦場面の詳細な描き込みなど、模本とはいえ、きわめて丁寧に作られており、着色されている点でも貴重な歴史資料といえます。

(平野卓治)

常設展示室探検

人力車

近現代展示室「伊勢佐木町通りの風景」では、明治三〇年代の伊勢佐木町(中区)に集まった人々を、実物大の模型で紹介しています。その中に、人力車と乗客の女性、そして車夫の姿があります。

人力車は、一八七〇(明治三)年に東京で、製造と営業が始められました。座る位置が高く景色がよい、座ったまま目的地まで移動できるなど、快適さと便利さで人気を博し、人々のもつ



とも身近な交通機関として、昭和時代初期まで活躍しました。

写真にある、鉄輪がはめられた木製車輪が特徴の人力車は、明治時代に使用されていたものです。乗客が降りる時、車夫は中腰になり、乗客の女性を支えました。そのおかげで、乗客の女性は安心して降りることができたのです。模型の情景は、一九九三年、最後の車夫経験者と言われていた、古野永治郎さん(故人)のご協力によって、再現することができました。

報告

じん だいか ぐら 神代神楽公演

新年度はじめの四月一日、博物館講堂で

神代神楽公演が開催されました。これは、平成一八年度企画展「横浜の神代神楽」の関連事業として企画されたものです。おかげさまで多くのお客様においでいただき、その賑わいと、響きわたる神楽囃子の音で、まるで博物館にお祭りがやってきたような一日になりました。

神代神楽は、面をつけて「古事記」や『日本書紀』の神話を舞う、ストーリー性の強い神楽です。「神楽師」という専門の人たちが演じ、その神楽師をまとめる人を「元締」といいます。元締のもとでの神楽師集団を「社中」と呼び、元締は、神社や氏子から依頼を受けて、祭礼で神楽を奉納す

るのです。

横浜には、現在三つの社中があります。鶴見区の萩原諄夫社中、港北区の佐相秀行社中、神奈川区の横越政義社中です。三社中の神楽は、それぞれが伝えられてきた地名によって、市場神代郷神楽、港北神代神楽、子安神代神楽と称されています。今回は、この三社中すべてに公演をお願いします、快くご了承いただきました。実は、これまで三社中が一堂に会する機会はなかったそうで、これが三社中初の共演となりました。公演は、一社中一演目、計三回行いました。佐相社中の演目は、弓の名人地乗命が、稲荷大神に鬼退治を命じられる「稲荷山」。横越社中の演目は、保食之神という神様を

斬りつけてしまった須佐之男命が、高天原から追放されてしまう「神逐蓑笠」。萩原社中の演目は、その須佐之男命が出雲の国で八岐大蛇を退治し、櫛名田比賣と結ばれる「八雲神詠」。舞が主体の「稲荷山」、ストーリー性が濃い「神逐蓑笠」と「八雲神詠」、どれか一演目だけでも、続けて観くらべても、お楽しみいただけるようにプログラムを組みました。

公演は大混雑にはならないだろうと予想していたのですが、なんと当日は超満員のべ六五五人ものお客様においでいただきました。その期待に応えるかのように、社中の方々も熱の入った神楽をご披露くださり、大変な盛会のうちに公演は幕を閉じました。

アンケートでは、「地元の神楽を観ることができた」「感動した」など、よかったというご意見を多数いただきました。しかし一方で、混雑のためご迷惑をおかけした

こともあり、その対策に関するご意見も頂戴しました。今後の課題としていきたいと思えます。

最後になりましたが、足をお運びいただいたお客様、そして公演を快諾くださり、素晴らしい神楽を奉納してくださった三社中の皆様に深く感謝いたします。(小林紀子)



稲荷山



神逐蓑笠



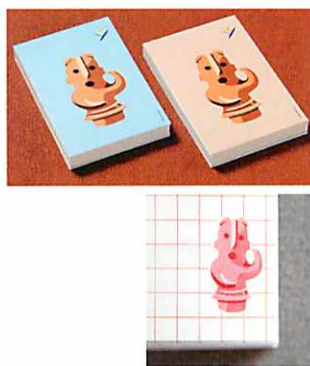
八雲神詠

ちよいと

ミュージアムショップたいむ
Museum Shop Time

埴輪メモブック

四月に発売して以来、ご好評をいただいている埴輪メモブックに、新色のピンクが加わりました。ピンクといっても上品なベージュピンクですので、シックなお持ちいただけます。しかも左の写真をごらん下さい！



「このメモ用紙にもハニワが欲しい。」という声にお応えして、ピンクのメモブックには付けちゃいました！右下にワンポイント、ハニワくんが笑って手を振っています。

このメモブックはYシャツの胸のポケットにスッポリ入る大きさに作られています。初めて会う取引先やお客様との打ち合せの時など、さっと取り出してメモすれば、その場がなごんで話もはずむかも！(相手に応じて使い分けてくださいね。念のため。)



どちらも1冊、252円(税込)。
ミュージアムショップでお待ちしています。

今後の企画展のお知らせ

- ◎企画展「鶴見合戦ー『太平記』にみる横浜ー」
10月20日(土)～11月25日(日)
- ◎「平成19年度横浜市指定・登録文化財展」「横浜の遺跡展」
12月8日(土)～1月14日(月・祝)
- ◎企画展「江戸時代のよこはまー青葉の村々と矢倉沢往還ー(仮称)」
1月26日(土)～3月16日(日)

表紙写真は

勤工場(かんこうば)「横濱館」 勤工場は、西洋雑貨や小間物などを扱う小さな商店が数多く集まった、現在で言うショッピングセンターです。このしゃれた店構えの勤工場「横濱館」は、明治30年代の伊勢佐木町(中区)にありました。当時日本一の繁華街と呼ばれた、ザキの賑わいの一端を担っていたのです。

??????? 知ってますか ???????

スタンプシート始めました!

毎月月末の土曜日に行っている「学芸員による展示解説」では、この4月からスタンプシートサービスを開始しました。参加していただいた時代の欄に解説後にスタンプを押し、6つの時代全部がうまればプレゼントを進呈します。プレゼントは、横浜の歴史がわかる『常設展示図録』と、その時に開催されている企画展の招待券です。スタンプは常設展示室のシンボルで歴史劇場の鳥型ロボットと、人物壇輪(楯持人)の2種類を用意しました。解説後に「スタンプを押してください」と言われる参加者の方と学芸員との間に交わされる鳥型ロボット談義?もまた楽しいものです。

スタンプシートは最初に押印した月より1年間有効です。スタンプを集めて博物館をますます楽しんでみてください。



(2007年4月1日～2007年10月31日)

- 4月1日 企画展関連「神代神楽公演」
- 4月19日 ふるさと横浜探検「よこはま事始め 山手地区」
- 4月28日 特別展「ヒトが移る、モノが動くー古代の東国にその痕跡を探るー」開催(6月24日まで)
- 4月28日 ラストサタデープログラム(原始I)(昔ののりもの)
- 4月28・29日 体験学習「まがたまづくり」
- 5月13日 企画展関連講演会「古代の王権・国家と渡来人」
- 5月24日 ふるさと横浜探検「富岡製糸工場と古代上野三碑を訪ねて」
- 5月26日 ラストサタデープログラム(原始II)(火起こし体験)
- 6月7日 企画展関連「那須地域を見学する日帰りバス・ツアー」
- 6月10日 企画展関連講演会「考古学からみた東国の渡来人」
- 6月16・17日 体験学習「小田原ちょうちん」
- 6月30日 ラストサタデープログラム(古代)(火起こし体験)
- 7月8日 エントランスホールコンサート「歌とフルートとピアノで奏する音の花束」
- 7月14日 企画展「乗り物・おみやげでたずねる昭和30～40年代の旅ーよみがえる旅のキオウー」開催(9月2日まで)
- 7月16日 新収蔵資料の展示紹介(7月22日まで)
- 7月25・26日 体験学習「そめもの(万祝染)」
- 7月28日 企画展関連「博物館にSLがやってくる」
- 7月28日 ラストサタデープログラム(中世)
- 7月29日 企画展関連講演会「旅に学ぶー抜け参り・修学旅行・大学探検部の伝統ー」
- 7月31日・8月1・3日 体験学習「土偶づくり」
- 8月4日 企画展関連「夏休み、親子で学ぶ旅のきょうしつ」
- 8月5・26日 夏休みきし教室
- 8月8日 体験学習「まゆ細工」
- 8月9・17・18日 体験学習「まがたまづくり」
- 8月19日 野焼き
- 8月21日 新収蔵資料の展示紹介(8月26日まで)
- 8月23日 企画展関連「碓氷峠鉄道文化むらと国指定重要文化財 碓氷峠めがね橋をたずねて」
- 8月25日 ラストサタデープログラム(近世)
- 9月1・2日 堅穴住居に泊まろう
- 9月15日 テーマ展示「合戦絵巻」開催(10月8日まで)
- 9月17日 新収蔵資料の展示紹介(9月24日まで)
- 9月29日 ラストサタデープログラム(近現代)
- 9月30日 テーマ展示関連ギャラリートーク「大鑑と合戦絵巻」
- 10月5日 古文書解説教室「初めての古文書」(12月7日まで連続10回)
- 10月6・7日 体験学習「土偶づくり」
- 10月10日 ふるさと横浜探検「旧東海道神奈川宿の歴史散歩」
- 10月20日 企画展「鶴見合戦ー『太平記』にみる横浜ー」開催(11月25日まで)
- 10月29日 ラストサタデープログラム(原始I)

横浜市歴史博物館 ● 日誌 ●

横浜市歴史博物館および大塚・歳勝土遺跡公園の利用案内

- 開館時間
午前9時から午後5時まで(ただし、入館は午後4時30分まで)
大塚遺跡、都筑民家園を除く公園部分は24時間オープン
- 休館日
歴史博物館・大塚遺跡
月曜日(祝日の場合は翌日)、年末年始
都筑民家園
毎月第3月曜日(祝日の場合は翌日)、年末年始
そのほか展示替えなどのため、臨時に休館することがあります。
- 常設展観覧料

区分	個人	団体 (20人以上1人につき)
一般	400円	320円
高校生・大学生	200円	160円
小学生・中学生	100円	80円

- ◆特別展・企画展の観覧料は、別に定めます。
- ◆毎週土曜日は、小・中・高校生は無料です。
- ◆「長寿のしおり」「敬老特別乗車証」「愛の手帳(療育手帳)」「身体障害者手帳」「障害者手帳」をお持ちの方は無料です。

●交通案内図

横浜市営地下鉄「センター北駅」下車徒歩5分
〔「センター北駅」へは横浜駅から23分 新横浜駅から12分〕



駐車場あり(1時間200円)

●インターネットホームページ

<http://www.rekihaku.city.yokohama.jp/>

編集後記

今年の夏は記録的な猛暑でした。そのためか、涼しい風に、秋の訪れをより一層感じられるような気がします。秋の企画展は「鶴見合戦」をお送りします。「太平記」の描く時代、横浜の鶴見で起こった二度の戦いを中心に、地域の合戦や人々の生活をひもときます。この機会に博物館では、はるか「太平記」の時代に思いを馳せてみてはいかがでしょうか。こまめにお待ちしております。

(K)

